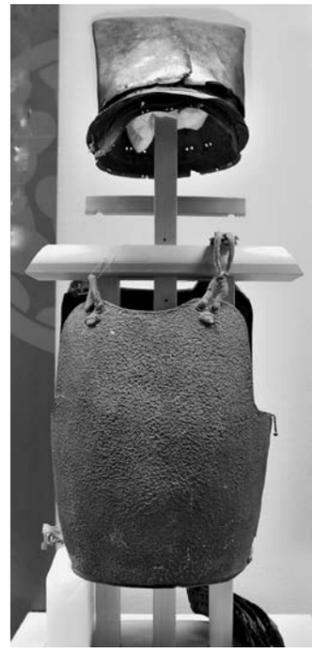


龍馬につながる「一領具足」

長宗我部軍の中で目覚ましい働きをしたのが「一領具足」でした。彼らは1〜3町ぐらいの田地を持ち、平素は田を耕す半農半士でした。農耕に出るときには、城から陣触れのホラ貝の音が聞こえてくるとすぐに出陣できるように、いつもやりとよろいを畑の傍らに置いていました。具足は一領、馬は替え馬なしの一端で戦場を走り回るために、その名ができました。元親はこうした農民的武士を地域ごとに組織化していました。織田信長や豊臣秀吉などの中央では、兵農分離が行われつつありました。しかし、土佐は前面を太平洋に囲まれ、後方は四国山地が途切れることなく非常に険しく海に落ち

込んでいて、いわば万里の長城に囲まれたような土地で、信長のような政策をしても、兵を維持していくだけの年貢米を集めることは不可能に近かったのではないのでしょうか。長宗我部軍で活躍した一領具足の子孫が、幕末に脱藩し、倒幕に立ち上がった多くの郷士へとつながります。この事実からも長宗我部の精神が後世に引き継がれたことがよく分かります。長宗我部といえは一領具足、土佐といえは一領具足といえます。龍馬の原点が一領具足といえるのではないのでしょうか。



一領具足のよろい (四十万市立郷土資料館所蔵)

後世に残そう「まほろばの里」

県立歴史民俗資料館の宅間一之館長に、波乱に満ちた元親の生涯を熱く語っていただきました。

儀なくされた部分もありますが、幸いにも、南斜面は手付かずで残っています。発掘調査や保存が急がれます。



宅間一之館長

また、土佐のまほろば地区振興協議会の村上隆夫会長の案内で、岡豊城跡を学習しながら散策しました。岡豊城跡の詰(最上)に立つと、木々の間から高知平野が一望できます。周辺には、国分寺跡、比江廃寺、小蓮古墳などの史跡があります。「ここは歴史の宝庫。ロマンの国なんです」と、村上会長。週末にはボランティアガイドをされています。岡豊山は、道路の建設などにより変化を余



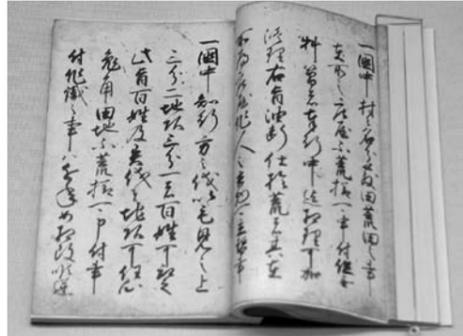
岡豊城跡の詰



村上隆夫会長



岡豊城跡周辺



掟書



地検帳

文化人元親

領国の経営

長宗我部地検帳(国重要文化財) 検地は年貢取り立ての台帳作成のために行われました。土地の状況や村の姿などが想定できる貴重な史料として残っています。

長宗我部百箇条 豊臣政権下での領国経営のために多くの掟が伝えられています。

修学・教養の勧め

元親は美濃の国から正室を迎えました。この人脈を使い、さまざまな文化人を岡豊の地に招き、子や家臣に修学を勧めました。

手習い、文学、太鼓、笛、礼式、和歌などの文化的教養を身につけさせ、馬、やり、太刀、弓、鉄砲なども修業させました。

文化財・史跡

元親は寺社の修理や改築、寄進などを積極的に行っています。

岡豊城跡(国指定史跡)

長宗我部氏の居城であり、土佐の中世城郭を代表する城跡。

岡豊別宮八幡宮

岡豊城のすぐ北にあり、元親の信仰厚く出陣の際は戦勝を祈願しました。

土佐国分寺金堂(国指定重要文化財)

1558(永祿元)年に元親が再建。元親の功績を不朽に伝える文化財とされるものです。

このほか、高知市にも元親が再建した土佐神社の社殿(国指定重要文化財)、元親初陣の銅像が建つ若宮八幡宮、長宗我部氏が代々寺奉行を務め、保護した吸江庵跡(県指定史跡)、元親の墓(県指定史跡)、長宗我部氏に代わり入国した山内氏に抵抗し敗れた一領具足の碑など、たくさん長宗我部氏ゆかりの史跡があります。ゆかりの地を訪ね歩いてみませんか。

渡邊毅広報委員長

コメント

南国市には、「土佐のまほろば」と言われる所があります。

長宗我部氏が長年の歲月をかけ民を思い、国の繁栄と永地を願い、居城跡地周辺に国分寺や岡豊八幡宮など多くの史跡を残していった思いの深い土地であったことを、特集の取材を通じてあらためて思い知らされました。

高知県でも随一の土地が、私たちの身近な岡豊城跡周辺に「まほろばの里」として残されていたことに、誇りが持てたことをうれしく思いました。岡豊城の山(詰)に立ち、しばし長宗我部国親・元親の当時の風を感じました。そして、土佐のまほろば地区振興協議会の皆さんと一緒に私たち市民も、この「まほろばの里」を守り、後世に伝えていかなければならないと感じた取材でもありました。